

P-53

ラット腹部熱傷創における真皮内リンパ管の三次元構築

(形成外科) ○上野 孝、菅又 章、渡辺克益
(第一解剖) 中村陽市、内野滋雄

ラットの正常及び熱傷創における腹部真皮内リンパ管を三次元構築し検索した。

ラットの腹部皮膚を採取し、固定、樹脂包埋連続切片を作成した後、光顕で観察し、真皮内にみられるリンパ管の三次元構築を行った。次に partial thickness burn を作成し、同様に三次元構築を行い経時的な変化を見た。

正常ラットの腹部皮膚では、リンパ管は表皮直下に始まり、真皮中層でリンパ管網を形成していた。受傷後、早期では拡張した真皮内リンパ管が多数みられ、その後狭小化していくのが観察された。これらは、真皮内リンパ管の容積などを測定することにより明らかにできた。

これまで、熱傷におけるリンパ管の形態的研究は切片標本の光顕、電顕の検索が主であったが、今回は熱傷時における真皮内リンパ管の形態変化を三次元構築を用いて明らかにした。

P-54

当科における歯および口腔軟組織外傷の臨床統計的観察

(霞ヶ浦・口腔外科)

○井上 雄、竹部幹浩、山田容三、増井康典、
本田一文、松川 聡、高森基史、中島仁一
(口腔外科学)
千葉博茂

1993年1月から1994年12月までの2年間に東京医大霞ヶ浦病院歯科口腔外科を受診した歯の外傷、口腔軟組織外傷および両者の合併症例について臨床統計的観察を行った。

<対象>

同期間の初診患者総数は4,162名で、そのうち調査対象とした症例は327例(7.9%)であった。内訳としては歯の外傷単独症例111例(2.7%)、口腔軟組織の外傷単独症例154例(3.7%)ならびに合併症例62例(1.5%)で、顎骨骨折、顔面皮膚の損傷などを合併するものおよび義歯による褥創などは除外した。

<結果>

歯の外傷172例では(1)男女比1.7:1で男性に多く、年齢は10歳未満48例、10歳台45例に多く、両者で半数以上を占めていた。(2)受傷原因は転倒、転落63例(36.6%)、交通事故58例(33.7%)によるものが多かった。(3)受傷当日に来院したものは77例(44.8%)であった。(4)受傷部位は上下顎比2.1:1で上顎に多く、中切歯が198歯(58.2%)でもっとも多かった。乳歯でも同様の傾向にあった。(5)受傷の様相は不完全脱臼218歯(79.1%)がもっとも多く、次いで、完全脱臼69歯(16.9%)、歯冠破折67歯(16.4%)などであり、保存率は不完全脱臼で89.2%、歯冠破折97.0%と高かったが、完全脱臼、歯根破折などは低かった。(6)処置は整復固定、歯随処置など保存処置が310例(75.8%)を占めていた。

軟組織の外傷216例では(1)男女比1.5:1で男性に多く、年齢は10歳未満が125例(57.9%)で圧倒的に多く、次いで10、20歳台の順であった。(2)受傷原因は転倒、転落84例(38.9%)、交通事故46例(21.3%)が多かった。(3)受傷当日に来院したものは160例(74.1%)であった。(4)受傷部位は下唇が84例(36.5%)でもっとも多かった。(5)受傷の様態は縫合処置を要した裂傷が124例(52.1%)であった。

<まとめ>

歯の外傷では上顎中切歯の不完全脱臼がもっとも多かった。処置は基本的にすべての歯の保存を試みているが、来院までの期間の長いもの、完全脱臼、歯根破折などでは予後不良例が多かった。軟組織の外傷は幼児の転倒による口唇部の受傷が多かった。受傷当日の来院が多く予後は良好であった。